



6 月 度

⑥ なるほど そうか やってみよう!

< 儲けを管理する: その3 > 粗利益について、ちょっとだけ深く考えてみよう

一般的に『粗利益』という場合には、2種類ある。

(1) 正式な粗利益 = 売上高 - 売上原価 (期首下代在庫 + 当期下代仕入高 - 期末下代在庫)

(2) 一般的な粗利益 = 売上高 - 原価 (仕入下代)

(1) は会計上 (税務申告) の正式な粗利益 (2) は通常よく使われている粗利益 (売買差益)

会計ソフト (MiT・ポスコなど) を導入している場合の日々の粗利益は (2) の売買差益を使っている。

年間で集計すると (1) と (2) には大きな差はない。ただ、(1) の場合には、期首 (月初でも OK) と

期末 (月末でも OK) の在庫に大きな違いがある場合には粗利益が大きく変化する。

十数年前のことであるが、期末になぜか仕入れを増やして在庫額を大きくしているある有名店があった。不思議に思ってよく良く調べてみると、粗利益率を上げて決算内容を良くしようとしていた。(銀行対策?と思われる) (1) の売上原価の式を見ればなぜだか理解できますね。

< 数値を入れて、具体例を見てみよう >

(1) の正式な粗利益 売上高: 1億円 (2018/12期)

* 下代在庫: 期首 (2018/1) 1,500万円 期末 (2018/12) 1,800万円 * 当期 (2018/1~12) 下代仕入高 7,000万円

粗利益 = 売上高 10,000万円 - (期首在庫 1,500万円 + 当期仕入高 7,000万円 - 期末在庫 1,800万円)
= 10,000万円 - 売上原価 6,700万円 = 3,300万円 (33%)

(2) の一般的な粗利益 = 売上高 10,000万円 - 仕入下代 7,000万円 = 3,000万円 (30%)

(売上高 10,000万円に対応した商品の仕入下代が 7,000万円とする)

👉 在庫によって粗利益が違ってくることが少し理解できましたか?

ただし、これを会計上の操作に一度利用すると、毎回やらないと「つじつま」が合わなくなりますから、やらないように。

あなたの店の今の在庫をチェックしてみよう! : すべての問題は在庫に現れる!

在庫日数をチェック。在庫日数とは、今ある在庫が何日でお金に変わるかを表している。在庫日数が 90 日以上だと、売上の少ない月は少し資金的にきつくなる。

$$\begin{array}{ccc} \text{本日の上代在庫金額} & & \text{今月の本日までの} \\ & & \text{1日平均売上高} \\ \boxed{} \text{万円} & \div & \boxed{} \text{万円} = \boxed{} \text{日} \end{array}$$

* 全社でも部門別でも OK

	在庫日数	評価	対策
①	60日以内	とても良い	今の在庫バランスを維持
②	61日 ~ 75日	良い	在庫鮮度は比較的良い。さらに上を
③	76日 ~ 85日	普通	一部、在庫鮮度悪化。対策必要
④	86日 ~ 105日	悪い	売れ行き不振商品 多数 早急な対策必要
⑤	106日以上	かなり悪い	大幅値下げ避けられず。非常事態宣言!

次回は粗利益と密接に関係している指標の『商品回転率』